

## 脇田和と佐藤忠良 一子どもへのまなざしー



佐藤忠良《ふざけっこ》1964年  
宮城県美術館蔵



脇田和《あい坊と猫》1948年  
石川県立美術館蔵  
ー「脇田和と佐藤忠良一子どもへのまなざしー」よりー

### ■ 特別陳列 加賀藩前田家の名刀

一天下五剣の名宝「大典太光世」が石川にー【前田育徳会尊經閣文庫分館】

### ■ 国宝《剣 銘 吉光》と刀絵図【古美術】

### ■ 幾何学文様のデザイン【近現代工芸】

### ■ 優品選【近現代絵画・彫刻】

- 4月の企画展示室
- 展覧会回顧
- アンケートキャンペーンのお知らせ
- 4月の行事予定
- アラカルト ただいま展示中

企画展(第7・8・9展示室)

# 脇田和と佐藤忠良 一子どもへのまなざし

主催/石川県立美術館 特別協力/宮城県美術館、北國新聞社

後援/NHK金沢放送局、MRO北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、HAB北陸朝日放送

4月24日(水)～5月26日(日) 会期中無休

石川県立美術館は2015年、脇田美術館より画家・脇田和(1908～2005)の作品317点の寄贈を受けました。本展は、その脇田の作品の魅力を、戦後日本の具象彫刻をリードした佐藤忠良(1912～2011)を交えて紹介するものです。

脇田和と佐藤忠良の交友は、1936年(昭和11)に猪熊弦一郎、小磯良平、脇田和などが芸術の純粋性を唱えて設立した新制作派協会を活動の中心としていたことに始まります。絵画と彫刻という、分野は違えど戦後の日本の新しい美術の潮流を作り上げた仲間二人ですが、自身の子どもをはじめ、子どもをテーマとした多くの絵画・彫刻作品を制作し、『おだんごばん』(画・脇田和)と『おきなかぶ』(画・佐藤忠良)など絵本画家としても名高い二人でもあります。今回は絵本原画をはじめ子どもへのまなざしが感じられる作品や代表的な絵画、彫刻を展示し、二人の関わりについても紹介します。

## 観覧料

一般 1,000円(800円)  
大学生 800円(600円)

高校生以下無料

\*2階コレクション展観覧料を含む

\* ( )内は65歳以上の方および団体料金(20名以上)

\*身体障がい者・精神障がい者保健福祉・療育手帳をお持ちの方、またはミライロIDをご提示の方および付き添いの方1名は観覧無料

## 関連行事

■講演会「絵本の絵をよむ 『おだんごばん』と『おきなかぶ』ほか」

日時…4月28日(日) 13時30分～15時

会場…石川県立美術館 ホール

講師…松村敏夫氏(福音館書店絵本研究室)

\*参加無料・申込不要

■土曜講座  
5月11日(土) 13時30分～15時  
「脇田和・佐藤忠良の絵本の仕事」講師…深山千尋(当館学芸員)

5月18日(土) 13時30分～15時

「彫刻家・佐藤忠良」講師…日置樹也(当館学芸員)

会場…石川県立美術館 講義室

\*聴講無料・申込不要

■ギャラリートーク

日時…5月5日(日)、12日(日)、19日(日)、26日(日)  
各日13時30分～14時30分

\*要観覧料・申込不要

石川県立図書館との連携事業

■司書による読み聞かせ会

内容…『おだんごばん』『おきなかぶ』ほか

①日時…4月27日(土)、5月5日(日)、11日(土)、19日(日)、25日(土)各日11時30分～12時

会場…石川県立美術館 2階VRシアター

②日時…4月28日(日)、5月12日(日)、26日(日)

各日10時30分～11時00分

会場…石川県立図書館 こどもエリア

\*いずれの会場も参加無料・申込不要

■関連ミニ展示「脇田和と佐藤忠良が手がけた絵本たち」

会期…2月1日(木)～6月2日(日)

会場…石川県立図書館4階リング西側



脇田和《おだんごばん》絵本原画 脇田美術館蔵



佐藤忠良《おきなかぶ》絵本原画 宮城県美術館蔵

# 特別陳列 加賀藩前田家の名刀

一天下五剣の名宝「大典太光世」が石川に一

3月26日(火)～5月26日(日) 休館日:4月16日(火)～20日(土)

## 学芸員の眼

前田利政は能登国七尾城主でしたが、関ヶ原の戦いで徳川家康に従わなかったため所領を没収され、その後京都の豪商、角倉素庵の長男玄紀に利政の長女が後妻として嫁いだことから、京都嵯峨の角倉邸に隠棲しました。本阿弥光悦とも交流があり、近年初公開された書状には、光悦が加賀の前田利常の様子を伝える興味深い記述があります。素庵と光悦のつながりから、俵屋宗達とも交流があった可能性も高いと考えられます。

「前田藤四郎」を扱っていたのは今回が3回目となりますが、そのたびに本作には利政の気骨と、嵯峨野にまつわるあはれの情感が投影されているように感じます。

本展では前号で紹介した国宝《太刀 銘 光世作 (名物大典太)》に加えて、国宝《刀 無銘義弘 (名物富田江)》、重要文化財《短刀 銘 吉光 (名物前田藤四郎)》(いずれも前田育徳会蔵)も展示します。これら名刀が一堂に展示されるのは、旧館以来実に57年ぶりとなります。

「名物富田江」は、南北朝時代に活動した刀工、江義弘の作。義弘は相州正宗の弟子といわれ、越中国新川郡松倉郷に住んだことから、郷義弘または江義弘と称されます。そこには「郷」と「江」は草書体が類似しているという事情もあるようです。本展では、国宝の指定名称に合わせて「江」と表記します。義弘の作は栗田口吉光・相州正宗と並んで天下三作と呼ばれ珍

重されました。

本作は、もと豊臣秀吉の家臣、富田一白(左近将監 信広)が所持していたことから「富田江」と呼ばれます。それを堀秀政が購入し秀吉に献上し、慶長3年(1598)秀吉の遺物分けで前田利長に下賜されました。その後、利長の遺品として將軍徳川秀忠に献上し、前田利常の時に再び前田家に下賜されました。義弘の作の中でも第一の名刀とされています。

「名物前田藤四郎」は、加賀藩祖・前田利家の次男・前田利政(孫四郎)から嫡子の前田直之(三左衛門)に伝わり、前田直之から前田利常に献上され、以後前田家に代々伝えられました。「前田藤四郎」の名は、当初利政が所持していたことによります。



重要文化財《短刀 銘 吉光 (名物 前田藤四郎)》



国宝《刀 無銘義弘 (名物富田江)》

# 国宝《剣 銘 吉光》と刀絵図

3月26日(火)～5月26日(日) 休館日:4月16日(火)～20日(土)

## 学芸員の眼

秀吉に愛好された吉光の出身地は、越前と考えられています。鎌倉時代に京都東山の粟田口に開いた刀工一派である「粟田口派」の中では、最も有名で、国吉の子あるいは弟子と考えられています。鍛冶のみならず、書も学んだとされ、国宝《剣 銘 吉光》(白山比咩神社蔵)や重要文化財《短刀 銘 吉光(名物前田藤四郎)》(前田育徳会蔵)の銘ふりにもそれが表れていると思います。短刀の名手として知られ、太刀は生涯一刀しか鍛えなかったと言われており、それが「一期一振」で《刀絵図》にも収録されています。大坂夏の陣では、豊臣秀頼が「一期一振」を指したとも伝えられています。大坂城落城の際に焼けて、この名刀を惜しんだ徳川家康が越前康継に再刃させました。

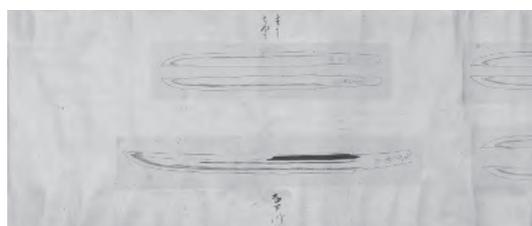


国宝《剣 銘 吉光》(部分)  
白山比咩神社蔵

今回は、重要美術品《刀絵図》について改めて紹介します。前号でふれたように、本阿弥光徳が文禄4年(1595)に制作した本作には、主として豊臣秀吉の蔵刀が収録されています。特に「太閤御物」として名声の高いものなどが、当時の姿で収録されていることで第一級の史料といえます。

本阿弥光徳(1554～1619)は、桃山から江戸時代前期の刀剣鑑定家で、本阿弥光利の長男です。本阿弥宗家の9代にあたり、分家の本阿弥光悦(1558～1637)とは従兄弟の関係となります。豊臣秀吉に信任され、慶長年間の初めごろ刀剣極め所と折紙発行を許可され、その後徳川家康に任せました。本作のような「本阿弥光徳刀絵図」が数種伝存しており、今回展示されたものは、重要美術品指定当時の所

蔵者から大友本と通称されてきました。本作は、雁皮紙にフリーハンドで形状、刃文、銘、彫り物を描き、雁皮を主体とした混合紙を台紙として40口が収録されています。描線にはためらいがなく、光徳の鑑定修行の厳しさをうかがうことができます。また粟田口吉光が巻頭から12口収録されており、その数は同じく天下三作の正宗や江義弘より多いという事実は、この刀工の高い歴史的評価を伝えるものとして注目されます。さらに本作は、足利將軍家により権威付けられた刀剣を、秀吉が所持することで、成り上がり者であった自身の権威を揺るぎないものに強化した足跡としても、再評価する意義があると思います。



重要美術品《刀絵図》(部分)

## 優品選

4月21日(日)～5月26日(日) 会期中無休

油彩画分野からは、立見榮男《雷神》をご紹介します。立見榮男は、河童や風神雷神、鯨や犬などが登場する夢幻の世界を、色彩豊かに描く作風が特徴的な作家です。本作にも、重厚かつカラフルな色彩の画面に、雷神や生き物たちの姿が見え、明るく不可思議な世界の営みを覗いているようです。

日本画分野では「街並みを愛でる」と題し、小テーマ展示を行います。我が国において「街並み」を画題とした絵画は、古くは室町時代の「洛中洛外図」があります。やがて浮世絵版画さらには新版画などが登場し、図式表現から抒情表現に変遷し、現代に至ります。変わりゆく見慣れた風景を絵に閉じ込める、画家たちの挑戦をご覧ください。

第4展示室、彫刻分野からは首像、胸像に焦点を当ててご紹介します。木村珪二《ねりん》は、作者が取り組んだ年配の男性をモデルとした作品です。「ねりん」という題の通り、年を重ねた男性の静かな魅力が表れています。企画展と合わせて、彫刻作品をお楽しみください。

そして企画展と関連し、水彩・素描分野から脇田和の作品をご紹介します。脇田は素描作品《ファミリー》の制作の前年に心筋梗塞で入院しています。作品の中の家族たちは穏やかな表情をこちらに向け、家族と過ごす時間を慈しむ気持ちで表れているようです。ぬくもりを感じさせる色調が、このファミリーの暖かなひとつの物語を語っています。



立見榮男《雷神》

## 幾何学文様のデザイン

前期:4月21日(日)～5月26日(日)

後期:6月1日(土)～6月23日(日)

幾何学文様とは、点や線・面などで構成される文様のことで、これらを組み合わせたり、連続させたり、大きさや太さを変えて配列することで、さまざまな文様が生まれます。日本では、古来より幾何学文様が施された陶磁器、漆器、染織などの工芸作品がつけられ、時代を経るごとに単純な文様から複雑な文様構成へと発展し、現代においては作家の表現方法の一つとして、重要な文様となっています。

展示では、幾何学文様でデザインされた工芸や、幾何学的な形状をした作品を、「幾何学文様のデザイン」、「連続文様」、「線の表現」、「幾何学のかたち」の4つのパートに分けて紹介します。

「幾何学文様のデザイン」では、当館所蔵の《色絵石

畳双鳳文平鉢 古九谷》にみるような石畳文を、□や「点などの幾何学的な形に分解して、それを再度リズムカルに構成した、嵐一夫《色絵幾何文大皿》を紹介いたします。「連続文様」では、釉薬の濃淡によって生み出された菱形の連続文様が美しい三代徳田八十吉《耀彩鉢》を、「線の表現」では、線と線とを組み合わせて生まれた様々な図形に友禅染を施し、街の景色や人々を抽象的に表現した成竹登茂男《街の断片》を紹介いたします。最後に、「幾何学のかたち」では、○と△と□をそれぞれ象った、久世建二の《落下》シリーズ3点を紹介します。

線や図形による様々な表現をお楽しみください。



嵐一夫《色絵幾何文大皿》

## 展覧会回顧

# よみがえった文化財 —保存活用を支える修復技術—

会期 1月4日(木)～2月12日(月・休)

## 第3～9展示室

# 第80回現代美術展 洋画・彫刻・工芸・写真

主催／一般財団法人石川県美術文化協会、北國新聞社、  
一般財団法人石川県芸術文化協会、北陸放送、テレビ金沢、  
石川県、金沢市、石川県教育委員会、金沢市教育委員会

3月28日(木)～4月15日(月) 会期中無休

昭和20年10月に第1回展が開催された現代美術展は、本年80回展を迎えます。その間、文化勲章受章者、日本芸術院会員、人間国宝をはじめ、多くの実力作家を生み出し、その成果は「美術王国石川」として大きく花開いております。

本展では、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真の六部門に、石川県美術文化協会会員らの秀作と、一般公募からの入賞・入選者の意欲作を所属会派を超えて一堂に展示します。

また第80回を記念して、過去10年の美術文化大賞を受賞した作品を、石川県立美術館において展示します。

令和6年能登半島地震は、改めて文化財を守り、伝えていくことの重要性和、地域における美術館の使命を考える機会ともなりました。本展は、文化財修復を地域文化の本質的な独自性と位置付け、藩政期から修復工房開設に至る石川の文化風土を再認識しつつ、文化財の保存・修復の成果を紹介するとともに、地域間の連携など、これからの文化財活用を展望することを趣旨として予定通り開催されました。

第1章は「文化財修復の先駆者 加賀藩主・前田家の業績と思想」とし、全国の大名に先がけて明確な思想に基づいた文化財の保存修復を実践した加賀藩五代藩主・前田綱紀に改めて着目しました。第2章は「石川県文化財保存修復工房の設立と実績」としました。当館開館以来取り組んできた修復事業が、199

### ◇部門

洋画・彫刻・工芸・写真

※金沢21世紀美術館では、日本画・書が展示されます。

### ◇観覧料(金沢21世紀美術館と共通)

	一般	高校・大学生	小中学生
当日	1,000円	700円	600円
前売り	900円	600円	500円

※団体(20人以上)は団体割引(前売り料金から100円引き)

※当館友の会会員は会員証の提示で団体料金

### ◇連絡先

一般財団法人石川県美術文化協会

電話・076-260-3581

(平日午前10時～午後6時)

7年に美術館付属の専用施設が石川県文化財保存修復工房として開設されたことにより拡充し、2016年の新築移転を経て今日に至る過程での修復実績を体系的に紹介しました。

第3章は「赤羽刀、白山信仰(下山仏と白山曼荼羅)―その他の実績」として、国から譲与を受けて研磨した旧赤羽刀と、白山信仰の仏像、仏画を紹介しました。最後の第4章は「保存修復と活用そして連携―なら歴史芸術文化村の活動」として、同村の活動の中から、レプリカに対する新たな視点を紹介しました。

また本展では、通常の講座・講演会に加えて、美術館ならではの視点による演奏会や、文化財保存修復工房とのワークショップなど関連事業にも注力し、好評をいただきました。



# アンケートキャンペーンのお知らせ

石川県立美術館の展覧会やVRシアターをご覧いただき、アンケートにお答えくださった方に、オリジナルしおり4種類のうちお好きなものを1枚プレゼントします。しおりがなくなり次第終了しますので、お早めに！



## しおりとの引換方法

当館のアンケート(次の3種)に回答いただき、記入済みアンケート用紙を2階コレクション展受付にお持ちください。アンケート1種につき、お好きなもの1枚をさしあげます。当館主催の企画展会期中は、1階企画展受付でも引き換ええます。

### ①コレクション展アンケート

2階で開催中のコレクション展をご観覧いただき、出口付近に設置してあるコレクション展アンケートに回答。コレクション展観覧料が必要です。

### ②VRシアターアンケート

コレクション展示エリアのVRシアターにて上映している映像をご覧いただき、VRシアター前に設置してあるVRシアターアンケートに回答。コレクション展観覧料が必要です。

※1日3回(10時30分、13時30分、15時30分)上映しています

くわしい上映スケジュールは公式ウェブサイトをご確認ください

### ③企画展アンケート

1階企画展示室で開催中の当館主催企画展をご観覧いただき、出口付近に設置してある企画展アンケートに回答。企画展観覧料が必要です。

※企画展会期中のみご回答いただけます

#### 注意事項

- 対象となる展覧会は当館主催のものに限ります。2024年度はコレクション展と企画展「脇田和と佐藤忠良」「能登が育んだ作家たち」「まるごと奈良博」「食を彩る工芸」が対象です。
- 上記のアンケートに同時に回答いただくことは可能ですが、同一の展覧会およびVRシアターに対する回答は一度限りです。
- しおりとの引換はご観覧当日に限ります。

## 4月の行事予定

企画展「脇田和と佐藤忠良―子どもへのまなざし―」関連行事

27日(土)	28日(日)
<p>■石川県立図書館司書による読み聞かせ会 11時30分～12時</p> <p>美術館2階VRシアター 無料 申込不要</p>	<p>■講演会 13時30分～15時 美術館ホール 無料 申込不要</p> <p>演題…「絵本の絵をよむ『おだんごぼん』と『おおきなかぶ』ほか」</p> <p>講師…松村敏夫氏(福音館書店絵本研究室)</p>

## 《色絵石畳双鳳文平鉢》古九谷 いろえいしだたみそうほうもんひらばち こくたに

口径:34.7cm 底径:20.4cm 高:7.5cm  
江戸時代 17世紀

1637年3月に、佐賀藩が有田から日本人陶工826人を追放しています。追放の理由は、窯の乱立によって、燃料となる松が枯渇するのを防ぐためとされますが、日本人のみを追放している事実の背景には、キリシタン陶工の排除があったと考えることが出来ます。そして同年6月に利常は、平戸、長崎に藩士を町人に変装させて派遣し、名物裂や茶道具の購入に当たらせています。その際に、京都から吉文字屋庄兵衛を同道したことが『三壺聞書』に記されており、京都の商人の現地ネットワークを活用し、金に糸目をつけずに優品を購入したと思われる。

しかし、利常による派遣の真の目的は、加賀において古九谷へと結実する、色絵磁器のプロジェクトに着手する前段階として、有田を追放されて長崎周辺で生活の糧を得ようとしていた、キリシタン陶工たちと接触することだったと考えることができます。その根拠として挙げたいのが、古九谷の優品に見られる「名物裂」の意匠です。このような意匠構成は、「名物裂」を実現することなしには構想できないのではないでしようか。そこで、古九谷の絵付けに関与した工人は、加賀藩3代藩主・前田利常の卓越した好みを称揚する意味をこめて、自分たちとともに加賀に渡った「名物裂」を意識した意匠によって、古九谷の優品を制作したと考えることができます。

石畳文とされる本作も、「遠州緞子」を意識したものと考えることができます。そして蛍光X線による科学分析の結果、本作に使用されている青色釉薬は、イエズス会がセミナリオで西洋絵画を教授・制作するためにヨーロッパから輸入した顔料を使用したことが判明しました。

## 次回の展覧会

令和6年6月1日(土)  
～6月23日(日)  
会期中無休

	前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室
	歴代藩主の甲冑・ 陣羽織と加賀象嵌鏡 I	古九谷と再興九谷
第5展示室	第3・4・6展示室	企画展示室
幾何学文様のデザイン	優品選 【近現代絵画・彫刻】	能登が育んだ作家たち

## ご利用案内

## コレクション展観覧料

一般 370円(290円)  
大学生 290円(230円)  
高校生以下 無料  
※( )内は団体料金  
4月1日は第1月曜日より  
コレクション展示室無料の日

## 開館時間

午前9:30～午後6:00

## カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00

4月の休館日は  
16日(火)～20日(土)

「石川県立美術館だより」に広告を掲載してPRサービス・集客しませんか？

広報紙広告ならではの  
**メリット** ▶▶▶▶▶

- 地域に根ざした情報発信
- 石川県での知名度向上
- 自治体発行の信頼度の高い広報媒体

他エリア自治体広告もお任せください！  
092-716-1401

株式会社 ジチタイアド

福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG 薬院ビル7F 財源確保  
※株式会社ホープの広告事業は、2021/12/1付で「株式会社ジチタイアド」に会社化しております。

石川県立美術館だより  
第486号(毎月発行)  
2024年4月1日発行  
〒920-0963  
金沢市出羽町2番1号  
Tel:076(231)7580  
Fax:076(224)9550  
URL <https://www.ishibi.pref.shikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。